

国際シンポジウム

激動する湾岸アラブ諸国を読み解く：  
君主制、移民、湾岸経済の展望

セッション1：湾岸の経済と君主制の今

## **高まる透明性と説明責任要求： 湾岸アラブ諸国における議会政治の展開と 経済政策の決定プロセス**

---

ジェトロ・アジア経済研究所  
地域研究センター中東研究グループ  
石黒大岳

【禁 無断転載】

# はじめに

---

- 問題関心

- 湾岸アラブ諸国において、議会はいかなる存在意義を得ているのか、体制の維持にどのような役割を果たしているのか？

- アクター間の競争や協力といった相互関係に着目して分析

- 
- 本報告のねらい
    - 主要なアクターが経済政策決定プロセスへどのように関与しているのか、「アラブの春」前後でのアクター間の関係性の変化も踏まえて論じ、ビジネス活動を展開する上で留意すべき問題点を指摘したい。

# 何のための議会？

---

- クウェートでの経験
    - 2006年議会選挙を経て、野党勢力の主導による選挙制度改革の実現。  
⇒民主化の動き？
    - 典型的なレンティア国家  
⇒民主化は生じにくい
- 
- どう説明するのか？

- 
- レント分配の捉え方
    - 当然の権利 ≠ 恩恵
      - レント分配への要求が政治的要求に  
⇒ 民主化の可能性○
  
    - 政府（王族）がコントロール
      - 取り込みと分断統治によって  
異なる政治勢力を競わせ体制を維持
        - レント分配に関する情報の非対称性  
⇒ 民主化の可能性×

- 
- 湾岸アラブ諸国における議会
    - 立法権あり
      - クウェート、バーレーン、オマーン
      - 議院内閣制ではない。（→超然内閣）
    - 立法権なし（→諮問評議会）
      - アラブ首長国連邦（一部民選）
      - サウジアラビア（任命制、地方選あり）
      - カタール（任命制）
      - 審査、助言のみ。

---

- 議会（諮問評議会を含む）の改革

- 定員の拡大、選挙の実施、  
選挙権の拡大（1990年代～）

⇒民主化？

- コスメティック・デモクラシー
- 取り込み（コオプテーション）
  - 議会は「ラバー・スタンプ」
- 近代化・グローバル化への対応という面も
  - インフォーマルな伝統的合意形成システムの  
制度化、立法の需要

---

- 議員の意識の変化

- 経験の蓄積、役割への自覚

- ▶ 政府に対するチェック機能



- 汚職・腐敗に対する批判

- 国内状況の変化、政府の危機意識

- ▶ 分配資源の縮小 = 財政悪化

- 公的部門で国民（支配一族も含めて）を養いきれなくなる

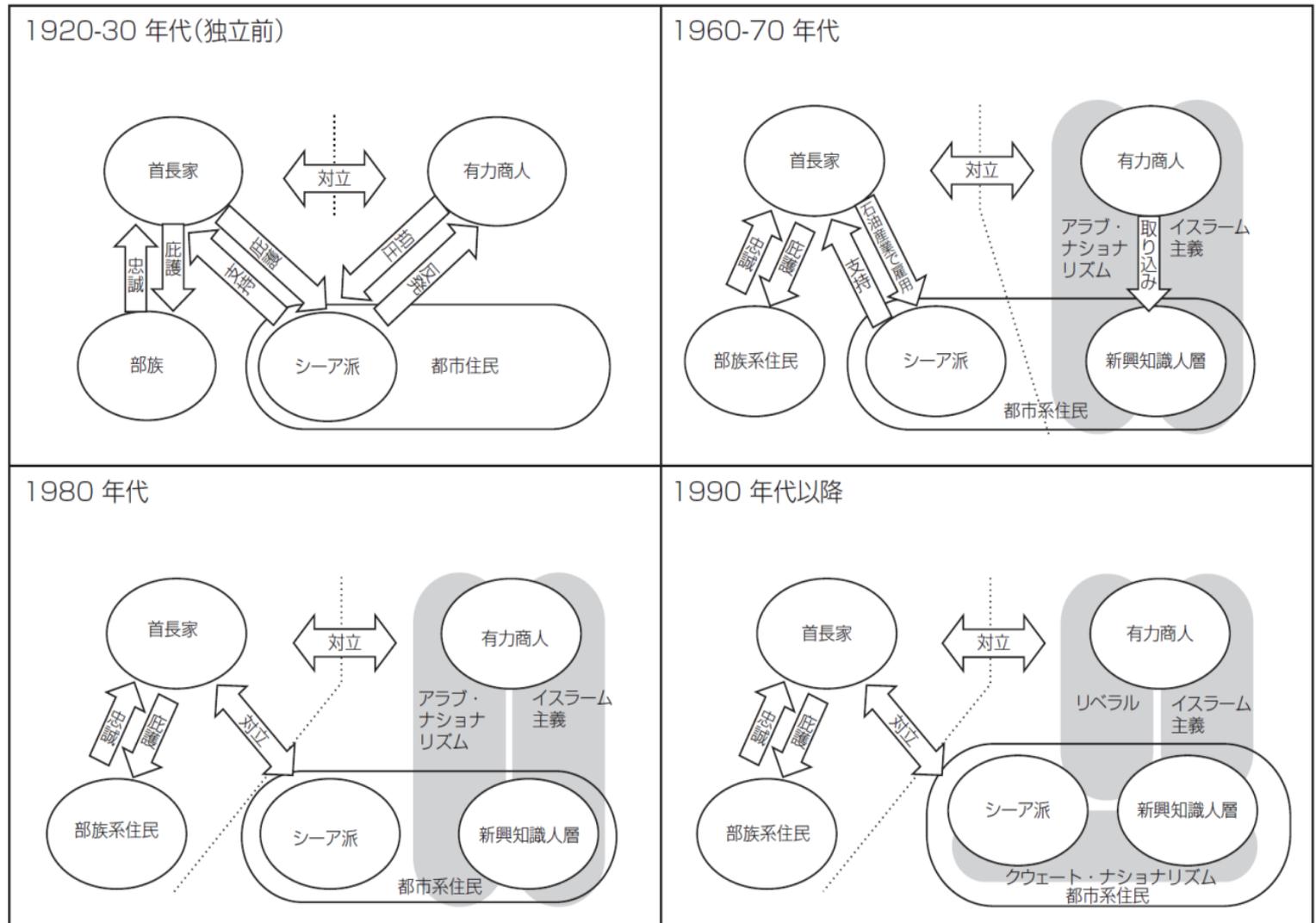
⇒国民に痛みを伴う改革が必要に

- 
- 政府が直面する課題
    - 財政構造の健全化（レント依存脱却）
      - 補助金カット、民営化  
⇒国民の不安・不満
    - 民間部門の雇用創出
      - 大規模開発プロジェクト  
⇒汚職・腐敗の温床、共有財産私物化への批判
- ⇒透明性・説明責任が重要に。
-

# 誰のための議会？

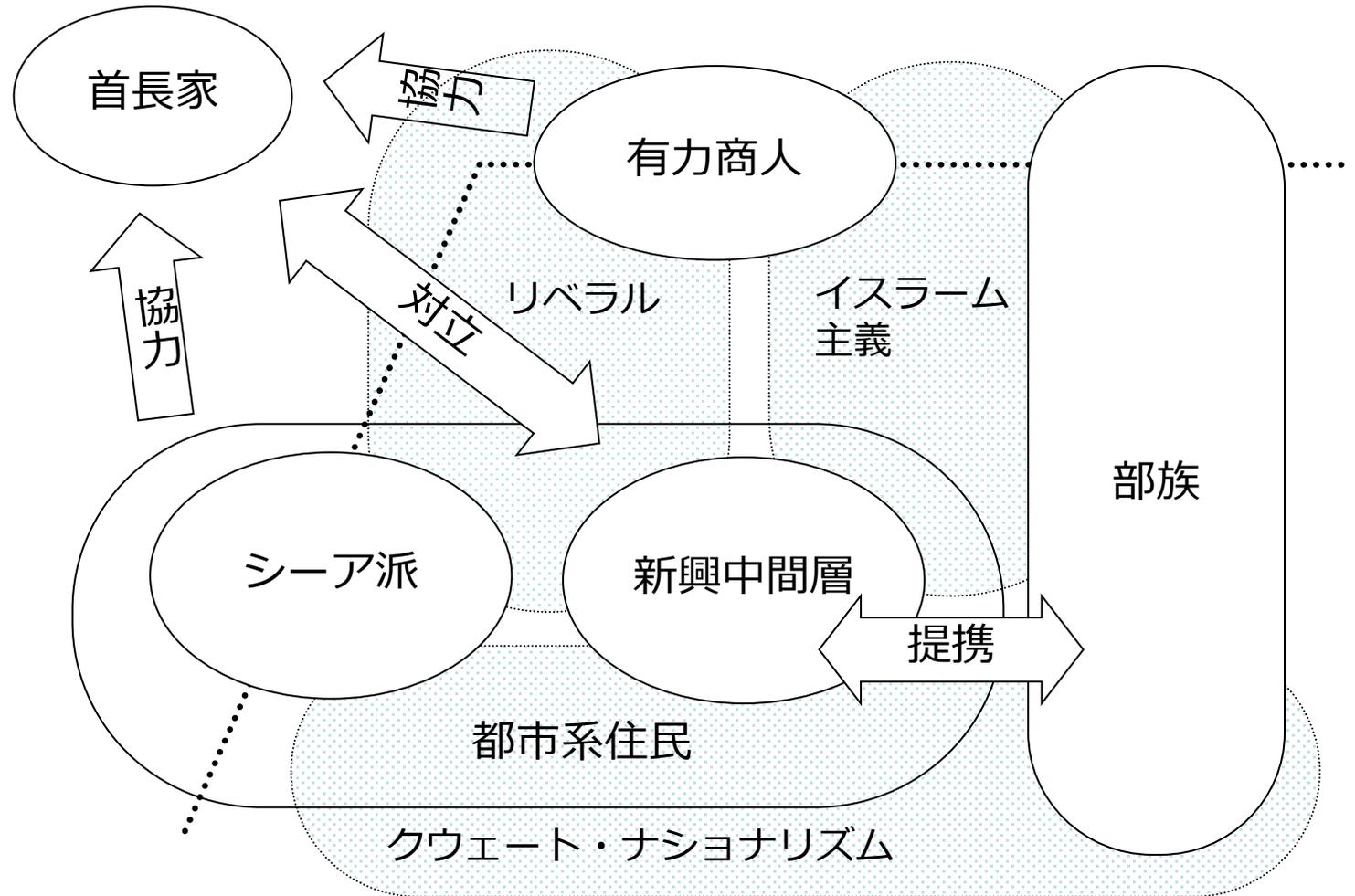
- 議会政治をめぐるアクター間の関係の変化
  - 政府に対し、誰がもの申してきたか？
    - 有力商人層 ⇒ 財閥、商工会議所メンバー  
～2000年代半ばまで
    - 新興中間層（都市部）⇒ 市民団体  
1980年代後半～
      - 近代化、参政権
    - 新興中間層（周辺部）⇒ 政治化した部族  
2000年代後半～
      - 経済成長、開発、選挙制度改革
      - 有力商人層・リベラルがマイノリティ化

図 政治参加の拡大と社会集団間の変化 (クウェート)



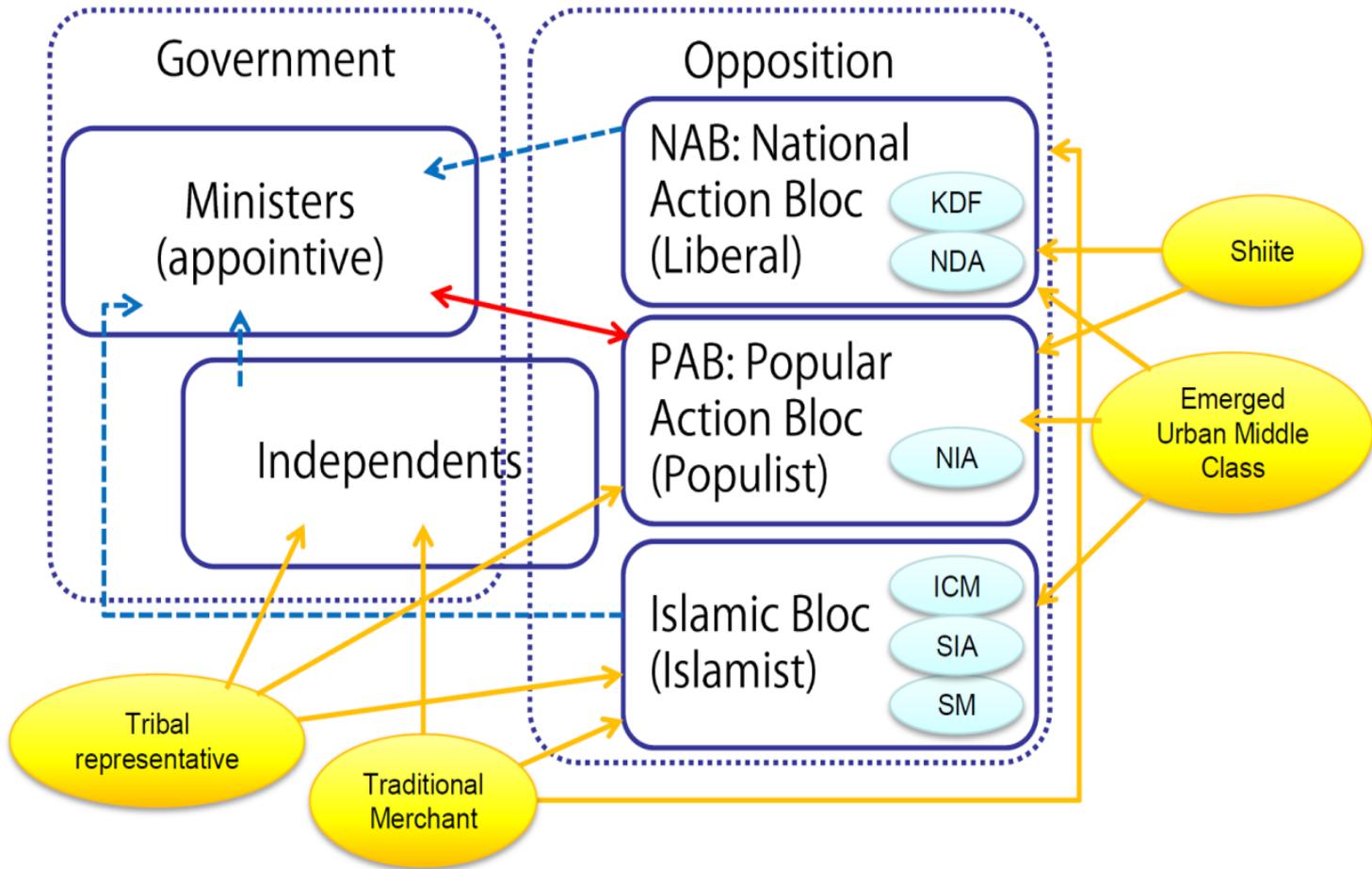
(出所) 石黒 2013, p.96.

図 政治参加の拡大と社会集団間の関係変化（クウェート・2000年代後半～）



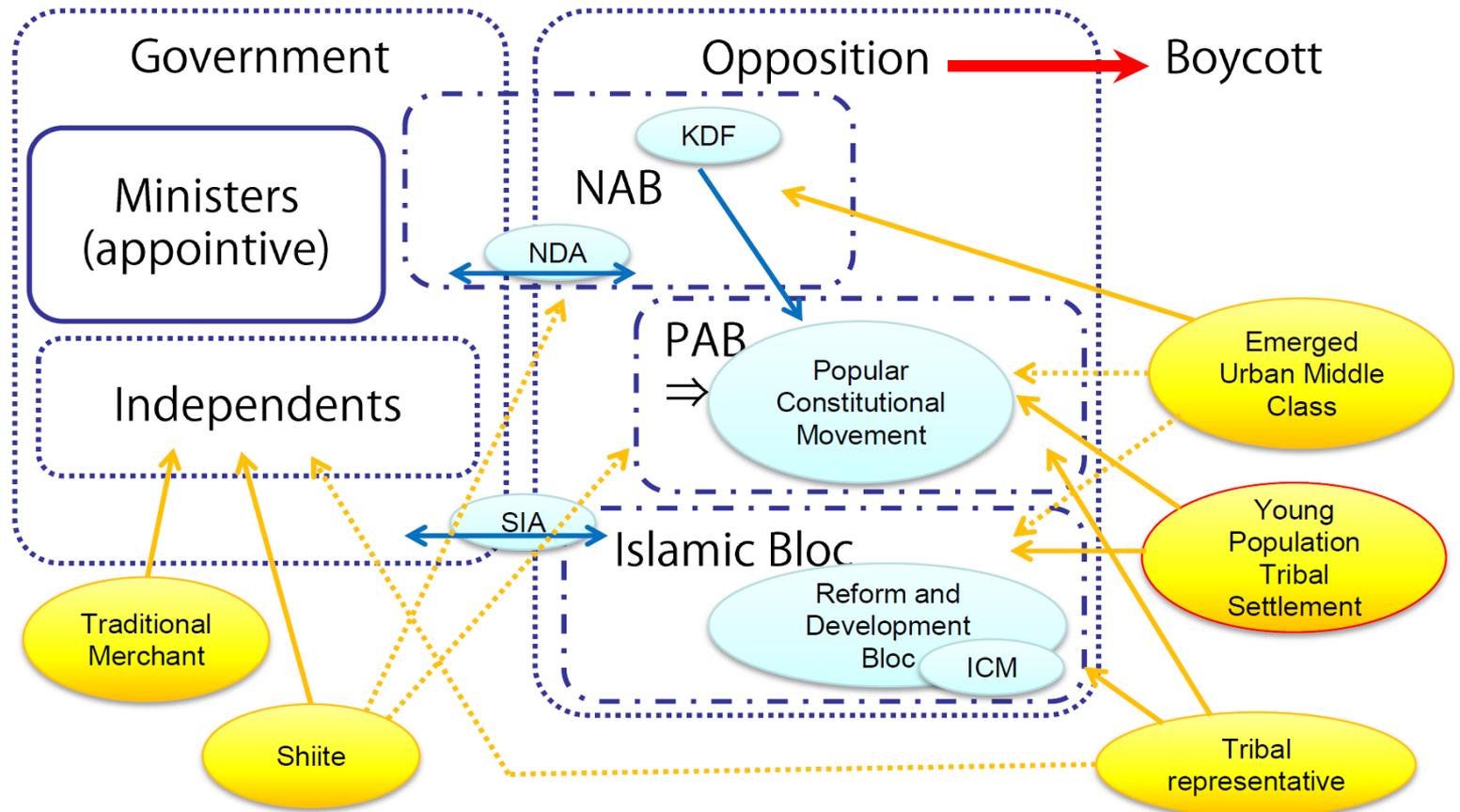
(出所) 筆者作成

図 議会内の競争構造 クウェート1999年議会～2006年議会



(出所) 筆者作成

図 議会内の競争構造クウェート・2008年議会～（選挙制度改革以降）



(出所) 筆者作成

---

- 議会内での対立要因の変化

- － イデオロギーから経済格差問題へ

- 議員の利害対立の要因は、  
地域間の経済格差

- 利益誘導政治（≡格差解消？）

- － 更新の進まないインフラ、  
劣化する公共サービス（医療、福祉、教育）

- － 新興勢力の拡大・変化

- 参政権の拡大、郊外開発と人口動態の変

- 相対的に貧しい周辺部が多数派へ

- ⇒ イスラミスト、ポピュリストの支持基盤

- 
- 「アラブの春」前後の対立関係
    - 政府、王党派（有力商人層、リベラル）
      - 開発プロジェクトの推進
        - ⇒政府の直面する課題への対応
        - 腐敗・汚職の拡大（国有財産の私物化による利益確保・独占という問題）
    - 野党（新興中間層、イスラミスト、部族）
      - 公共サービスの刷新（バラマキ政策）
      - 腐敗・汚職の批判
- 

---

- 野党の主張

- 「石油の富はどこへ行った!？」  
「財政黒字なのになぜ公共サービスは改善しない!？」

⇒透明性・説明責任の要求へ

- 主張の根拠

- イスラミスト： イスラームの公正概念
- ポピュリスト： 資源ナショナリズム

⇒支持の動員に

---

## ● 政府の対応

### – 開発プロジェクトの意義を強調

- 野党の反対でプロジェクトが進まないと批判
- 汚職・腐敗の問題

⇒なぜ野党と協力できないのか？

(なぜ取り込まない/取り込めない?)

### ➤ 野党にとっては権力奪取のチャンス

- 有権者数では多数派。さらに一票の格差を解消すれば、選挙で勝つこと間違いなし

⇒お互い強硬に

---

- 問題点

- 野党の「反対のための反対」

- 政府の形成に関与しないため、政策の遂行結果に責任を負わない
    - 政府批判のツールとして、閣僚の罷免要求の多用

⇒行政の機能マヒ

政府もダメだが、議会もダメ

⇒議会政治の信頼性の毀損に

➤ 他の湾岸アラブ諸国への影響も

# 誰のための経済政策？

---

- 経済政策を策定するのは政府
  - 王族とテクノクラートの合意
- 政策の推進には議会の協力が必要
  - 関連法案の制定、予算の承認
    - ⇒ 問題の焦点は入札・契約
      - 入札条件、入札額の積算根拠、契約条件に不利な条項がないか



入札法の改正、会計検査院での審査要請

- 
- ビジネス展開上の留意点
    - 誰のため？ 何のため？  
⇒ 透明性・説明責任要求の高まりに  
への対応
    - 特定の集団のための利益ではない  
ということの説明する必要  
⇒ 説得性のカギは  
分配の公平・公正さとの整合性
    - 一部で根強い資源ナショナリズム、  
イスラームの公正概念の影響力も頭のすみに。

---

ご清聴ありがとうございました。